

著書紹介

校長室だより

〜都立高校改革とともに歩んだ11年〜

著者 山田辰明 (昭42教大地鉦)

B6判 325ページ 1500円 (税別)

発行所 東京図書出版会

著者は昭和18(1943)年、東京都大田区生まれ。昭和42年3月東京教育大学理学部地学科地質学鉦物学専攻卒、東京都立高等学校教諭を経て、都立南平高等学校開設要員、都立大学附属高等学校定時課程教頭、都立町田高等学校長、都立田園調布高等学校校長を勤めた。都庁あげての都立高校改革が始まったのは、著者が教頭職について(平成5年)間もなくのことであった。

教員組織のあり方、学校経営計画、学校予算、人事考課、学校評議員制度、主幹制度、異動要項等の改革、導入が大胆に進められた。

高校の再改編、新しいタイプの高校づくりも同時に行した。改革の速さについていくのが精一杯であったと著者は言う。しかし改革の目指すもの、内容については、管理職になる前に新設校(都立南平高校)を立ち上げた経過から、著者として都教育委員会の目指す方向は理解できたという。

その間、改革の動きや見通しについては、生徒や保護者へも必要に応じて、「学校だより」や講話を通して伝えるようにした。

管理職になり直接生徒と関わる時間は乏しくなったが、その分生徒全員に向けた「学校だより」や「校長室だより」で生徒との直接的な関わりを補ったようだ。

校長職に就いてから「たより」の発行回数は、3校併せて200回近くになり、またその間、たより以外に行事の際の講話やPTA広報等への原稿も手元に残した。本書は、著者が退職を機にそれらを取捨選択してまとめたものである。

学徒勤労員の時代

—心理・行動ならびに教育—

著者 岡田 明 (昭28大心)

B5判 152ページ 1200円

発行所 愛育社

著者が、学徒勤労員を体験した青年前期から中期にかけて、どんな心理でどう行動したのか、その時に受けた教育はどんなだったか、その影響はどうか、そこから考えるべきことは何か、今の社会状況にどうすべきかを考えてまとめたものが本書である。

主な章立ては次のようになっている。

- I 東京府立第十二中学校
 - II 学徒勤労員の時代
 - III 学徒勤労員
 - IV その時代の心理と行動
 - V 教育
 - VI 今にして思うこと
- 心理学的には精神分析理論、認知理論、社会的学習理論ならびに文脈理論からの分析もなされている。
- 加えて現代の幸福感は「心」のよい状況「subjective well-being」の観点から分析されることがあるので、そのためのパラダイムも提案した。

津軽のやわら—本覚克己流を読む (1)

新書判 350ページ 1575円

弘前藩の武芸文書を読む (2)

新書判 350ページ 1575円

津軽の剣豪—浅利伊兵衛の生涯 (3)

新書判 330ページ 1575円

著者 (3冊共通) 太田尚充 (昭24東京高師体)

発行所 (3冊共通) 水星舎

〒036-8155 弘前市中野1丁目5-2

書名は違うが、各冊とも津軽弘前藩に伝わる武芸流儀の一部についての紹介である。

特徴は、各冊とも地元(弘前市立弘前図書館・地元弘前市民の有志の方々)に残る古文書を基礎として書き上げたことである。

以下、地元の新聞(陸奥新報)が本書を紹介した記事の中から紹介する。

(1) については「武芸の柔術は時によつては生死を懸けた。技の就業の姿勢、内容の厳しさは違うが、スポーツ柔道との共通性もある。かつての柔は命懸けで修行したことをわかつてもらいたい」というメッセージを著者は込めている。

(2) については4代藩主津軽信政の時代(1656~1710)を中心に、弓術、剣術、長刀、鎖術、柔術、砲術などが行われた中で「林崎新夢流居合」と「宝蔵院流十文字鎖」の二つを取り上げ紹介しているが、太田さんは浅利家が所蔵する伝書を中心に流儀の求めている精神的課題に注目している。

(3) については63歳の生涯を武芸者として修行に励んだ剣豪浅利伊兵衛(1656~1718)の人物像をまとめたもので、「当田流太刀」の後継者として伝書9巻を授与され現在も浅利家に所蔵されている。本書では33歳で勤番無断欠席で罰せられ浪人となり、57歳で再出仕が認められるまでの苦難の時代に、武芸者として多くの流派を修めた高潔な武芸者の人物像に迫っている。

同窓会の社会学

著者 黄順姫 (筑波大学人文社会学系教授)

A5版 244ページ 2000円+税

発行所 世界思想社

同窓会に出てもおもしろいことのひとつは、意外性に出合うことである。学生時代は、いるかないかさえはつきりしなかった女子が、華やかな有閑夫人に変貌していて、驚くこと。逆に昔のモテ男が、どこにでもいるただのおじさんになってしまっている場合もある。昔抱いた羨望と嫉妬の恨み?をはらしたりもできる。

そんなよこしまな感情を持って同窓会に出席しても、

最後に運動会や対抗戦で必ず歌った応援歌や校歌を皆が肩を組んで大声で歌うと、著者のいう「単純な過去」ではなく、「特別な性質がしみこんだ」過去が現前する。だからこそ、目頭が熱くなるのである。何十年前も前の学校生活がすべて楽しかったわけでもないにもかかわらず、である。

本書は、この学校愛感情が集会的記憶の再生としてノスタルジアとなる感情経路を抽出するものであるが、学校愛の分析にとどまらない。同窓生の信頼を通じての人脉資本(社会関係資本)についてまで対象を広げている。同窓会ネットワークは、仕事はいうまでもなく選挙や就活に活用されている。調査校(福岡県立修猷館高校)出身者が立候補した選挙で協力要請に応じたかのアンケートでは、66%の人が協力を応じたと答えている。同窓会ネットワークは他校出身の妻や夫をまさこんでのサークル活動にもつながっている。

聴き取り調査・質問紙調査はもとより参与観察・同窓会誌・同窓会記念文集・同窓会新聞の分析を総動員することで、「学校の身体文化」と「集会的記憶」が解明されている。ウオッチを十数年も続けた成果である。

本書が高く評価されるのは、従来の教育社会学者の学校社会学が現在の学校だけを対象にしてきたのに対し、学校教育の深い意味を読み取るには、卒業後にも学校は人々の生き方に刻印を打っているという視点と分析的な解明である。「同窓生の過去の学校は、彼らの現在の学校であり、未来に開かれた学校である」と著者はいう。名著に名言ありである。

(竹内 洋 関西大学東京センター長)

著書紹介の掲載について 季刊誌「茗溪」には、茗溪会員の皆さまの著書を紹介しております。先輩・後輩・友人などの著書を、25頁×18行程度の紹介文にしてください。

なお、書名、著者およびご本人の方の卒業年度、学部・学科(学群・学類)、本の大きさ、ページ数、価格、発行所等を付記して下さい。送っていただいた原稿は、部内の掲載検討会議ではかつたうえ、できるだけ多く紹介しようと考えております。

また、茗溪会事務局に、紹介した本を永く保存するため、一冊ご寄贈くださるようお願い致します。